

平成29年度学校自己評価システムシート (県立三郷特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒・保護者及び地域社会の期待に応え、信頼される元気な学校
--------	---------------------------------

重点目標	1 個別の指導計画に基づく授業の充実・改善 2 開かれた学校づくりと特別支援教育のセンター的機能の発揮 3 キャリア教育の観点に基づいた進路指導の充実 4 安心・安全・信頼を柱とする学校教育環境の充実
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	保護者と連携した教育支援プランA・Bを立てるとともに、授業研究や事例研究を通して授業改善を進めている。児童・生徒個々の合理的配慮を踏まえた教育計画・実践について、保護者との連携を深めていく必要がある。	・教育支援プランA・Bのもとで、継続した授業改善を行う。	①教育支援プランA・Bにおいて、個々の合理的配慮について保護者と合意形成を図り障害特性を踏まえた教育活動を行う。 ②児童・生徒一人一人を大切に授業について、研究授業・授業実践や指導法の研究等を通して授業改善を行う。	①プランA・Bにおいて、個々の合理的配慮について保護者と合意形成を図り作成・反映、障害特性を踏まえた教育活動ができたか。 ②学部研修会や自主研修を計画的に実施するとともに、実践や研修・検討を通じて授業改善ができたか。	プランの書き方、書式の検討や授業改善を行うことができた。 ①保護者のアンケートや面談の報告を受け、プランA・Bの記載と書式変更について検討した。 ②全体研修・学部研修等により、授業改善を行うことができた。	A	・昨年度は「差別解消法」の施行により「合理的配慮の実施内容」をプランAに加えた。実施内容の実現に向けて、更に校内で検討改善していく。 ・本年度の授業実践の総括を通じて、授業改善を継続して行う。
2	ホームページを更に見やすくするように改善する。地域の特別支援教育に関する相談に応じ、センター的機能を十分に果たしてきている現状があるが、さらに本校の活動を広く紹介し、開かれた学校づくりを推進する。	・ホームページによる情報提供を積極的に行う。 ・開かれた学校づくりを推進するため、学校を公開する。	①ホームページをさらに発展させ、より見やすくし、新しい情報が掲載されるよう週1回以上の更新をしていく。 ②地元三市の広報に年3回行う学校公開の情報を載せ地域の方々に周知する。	①ホームページのデザインを見やすく統一し、携帯端末による見やすさとともに週1回以上の更新をすることができたか。 ②三市の広報誌等に掲載することにより参加者数が増えたか。	開かれた学校づくりが着実に進んでいる。 ①ホームページの更新回数が増えた。 ②関係機関との連携の強化や地域の行事への参加及び積極的な紹介により来校者数が増えた。	A	・更なるホームページ更新と迅速化を望む声がある。更新の効率化に向けて校内体制を検討する。 ・学校行事等の紹介のPR度には地域差が有る。PR度の低い地域に対して積極的に紹介を行う。
3	キャリア教育の観点に基づき、自立に向けた長期的な進路意識の育成を行っている。また、保護者への情報提供も随時行っている。今後は、キャリア教育の系統性を図ることと保護者へのニーズに応じた情報提供が課題である。	・児童生徒の発達段階に応じた生きる力を、教育活動全般を通じて育成する。	①キャリア教育の観点に立ち、小学部から高等部を通じて系統的な自立と社会参加に向けた指導を推進する。 ②保護者との連携を深めるために進路に関するニーズを収集、検討し、的確な情報を提供する。	①「12年間を見通した各学部の進路に関する学習の流れ」に基づいて、自立と社会参加に向けた指導の実践が進められたか。 ②保護者が必要とする進路に関する情報を、適切に提供することができたか。	キャリア教育の観点による進路指導が進化した。 ①学部等において、3年間を通じた進路学習の活用が進んだ。 ②保護者への情報提供が進み、保護者アンケートによる肯定的意見が増加した。	A	・研修等により、校内の理解が進んだ。今年度12年間を見通したキャリア教育プロジェクトチームを発足させた。来年度さらに発展させる。 ・肯定的意見は増加したが、様々な情報提供を求める声がある。可能な範囲で情報提供を拡大していく。
4	引取り訓練などの災害訓練や、アレルギー対応のガイドラインが作成され、安心・安全の教育環境づくりが進んでいる。今後も様々な災害や事故等の状況を想定しながら、より実践的な方法を検討していく必要がある。	・安心・安全な教育環境づくりを進める。	①緊急メール配信システムについて保護者に周知し、活用・拡大していく。 ②大規模災害を想定した訓練を実施し、計画的に備蓄品を整備する。	①緊急メールの活用について、保護者への理解を深め、登録した割合が増えたか。 ②学校で災害があった事を想定し備蓄品の補充ができたか。	避難訓練や引取り訓練を通じて、安全教育を進めることができた。 ①保護者の要望を受け、ソフトバンク情報の配信にもメールを活用した。登録も増加傾向にある。 ②備蓄品の購入が進み、充足しつつある。	B	・緊急メールの活用が進んでいる。来年度はメールの配信状況が確認管理できるように変更する。 ・緊急時の備蓄品にはまだ不安がある。引き続き、来年度も備蓄品の購入を進めていく必要がある。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成30年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・様式や読みやすさに関しては改善されてきたが、更に単純化して欲しい。保護者の中にはプランA・Bとは何かを理解していない方も多いため、面談時などに担任から説明があると良い。 ・特別支援学校へ入学する際に、保護者は多くの相談機関などと相談をしながら決定している。期待が大きいが、それを実現できる学校を目指して欲しい。 ・昨年度と比較しHPの更新回数や情報量などが増え、改善を実感した。今後は更新回数よりも内容の工夫や充実を期待している。 ・学校公開の参加人数が増えたことは広報誌への掲載が大きい。今後も継続して多くの情報を市の広報誌等に掲載して欲しい。 ・進路指導は充実しているように思う。特別支援学校からの進路に関する情報は非常にありがたいものが多い。進路だよりを中心に、今後も情報提供をお願いしたい。 ・保護者の最大の関心事は就労先になる。個人情報の保護との兼ね合いとなるが、より具体的により多くの情報公開に努めて欲しい。 ・保護者としては学区内の不審者情報をメール配信する必要性を感じている。また、登録方法が分からず登録できない保護者も多い。学校のフォローが必要な場合もあるので協力をお願いしたい。 ・備蓄品の保管場所が課題となっているが、多くの教職員に災害への関心と危機感を持って欲しい。 	